

令和 8（2026）年度
学習院大学大学院
政治学研究科・博士前期課程
博士前期課程
試験区分（一般・B 日程）
入学試験問題

9:30～11:30	12:30～14:00
総合問題（英語含む）	専門科目※

※日本政治・政策研究コース：「政治学」または「行政学」（出願時にいずれか 1 つを選択）

※国際関係・地域研究コース：「国際関係論」（出願時に「国際関係論」のみを選択）

※社会・公共領域研究コース：「社会学」「社会心理学」「政治思想史」または「公共哲学」（出願時にいずれか 1 つを選択）

令和 8 (2026) 年度

学習院大学大学院
政治学研究科 博士前期課程

一般入試問題 (B 日程)

1 時限目

総 合 問 題

1. この問題には、「英語」、「総合問題」が含まれている。いずれも解答すること。
2. 「英語」については、解答用紙裏面の使用及び解答用紙の追加を認めない。
3. 「総合問題」については、解答用紙裏面の使用を認めるが、解答用紙の追加を認めない。

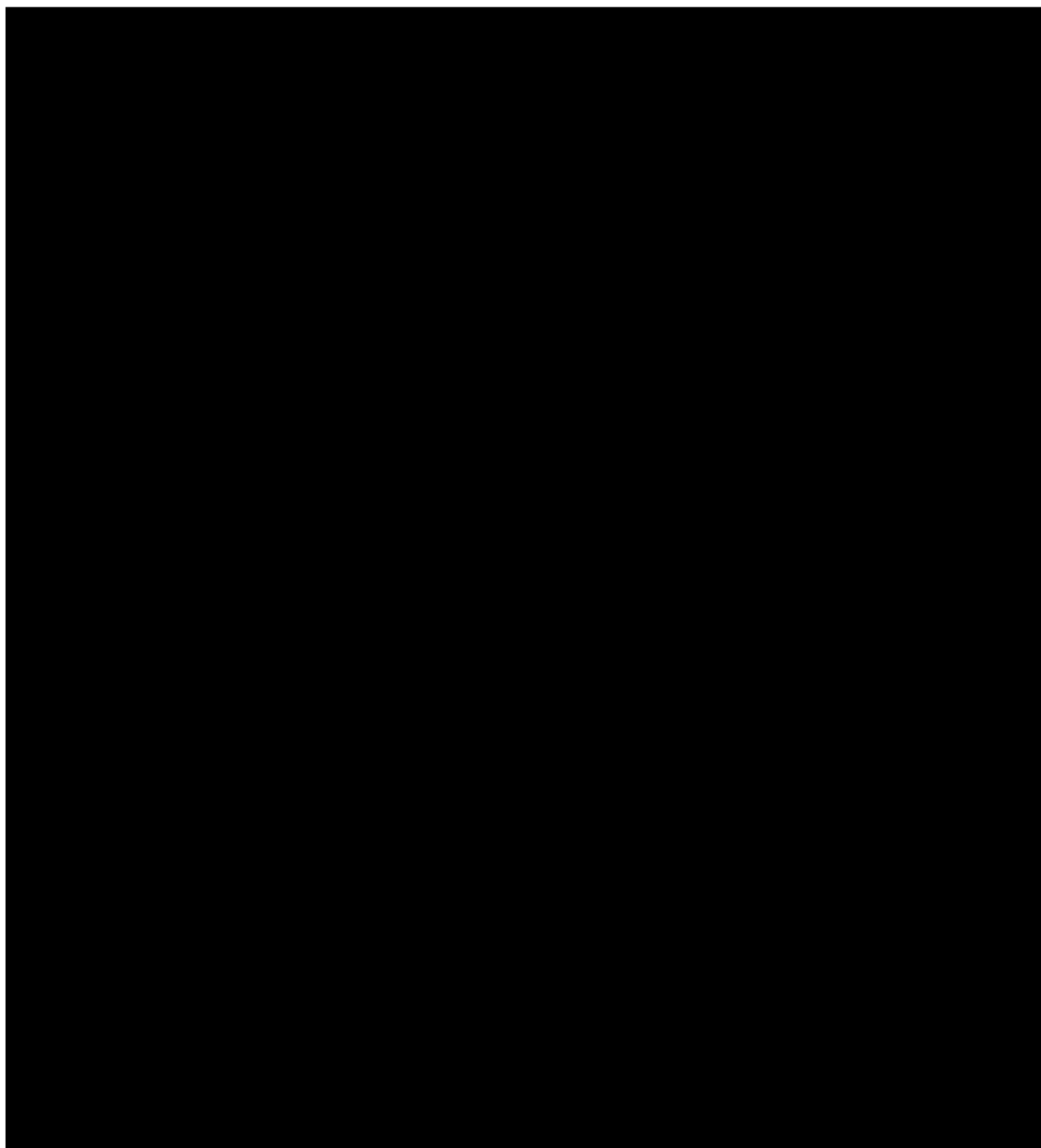
(注意)・答案は必ず提出すること。・太線内は必ず記入すること。

学習院大学大学院

課 程	博士前期課程	研 究 科	政治学研究科	専 攻	政治学専攻	受 験 番 号		フリ ガナ	
								氏 名	
試 験 科 目	令和8年度 一般入試(B日程) 総 合 問 題 (英 語)			備 考	問 題 用 紙			採 点 欄	

次の文章は、情報学者の Don R. Swanson がライブラリーサイエンスの専門誌 *The Library Quarterly* に発表した論文“Undiscovered Public Knowledge”の冒頭部分である。
この英文を読んで、設問に解答しなさい。

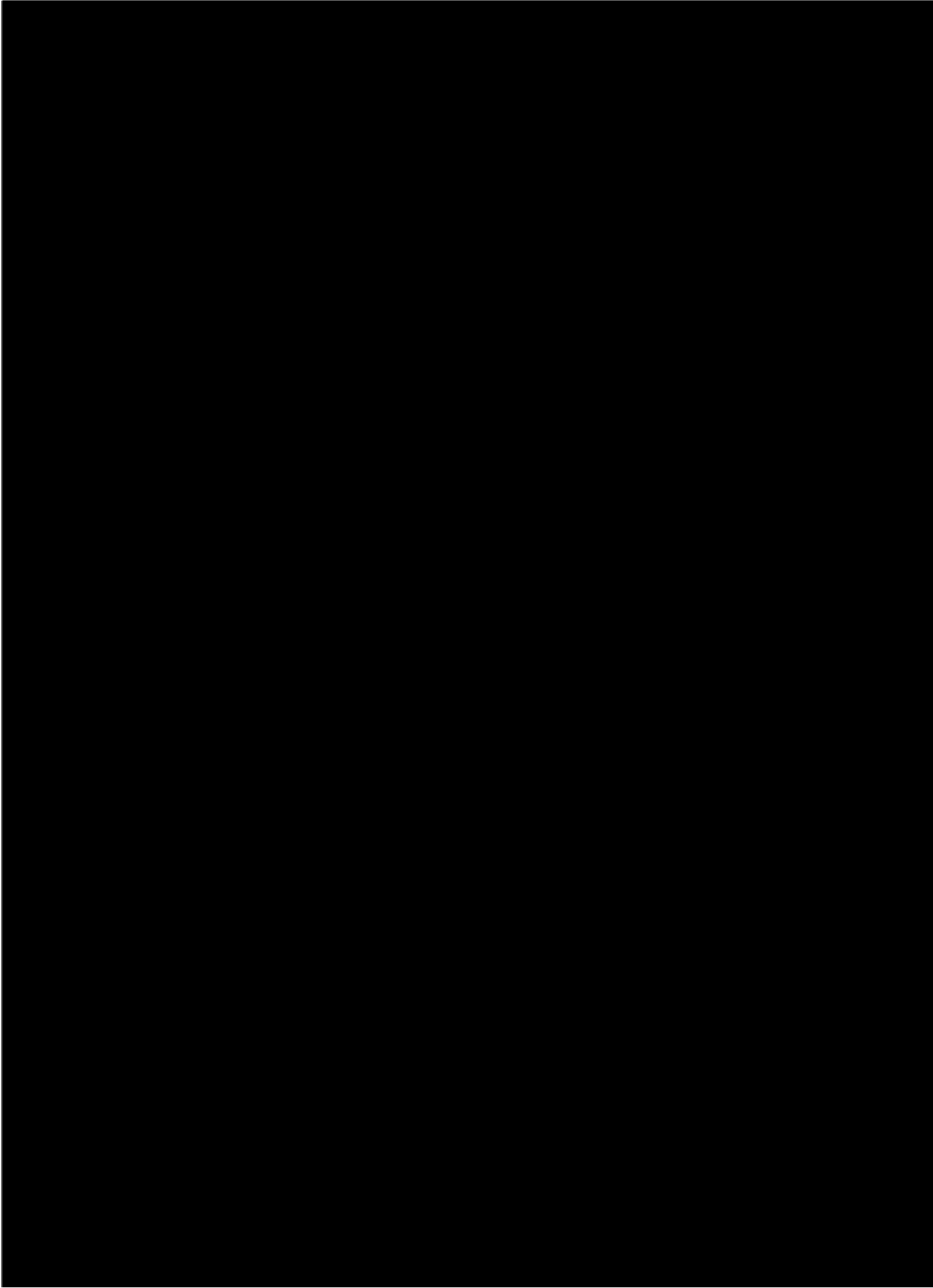
【出典】Don R. Swanson, 1986, “Undiscovered Public Knowledge,” *The Library Quarterly*, Vol. 56, No. 2, pp. 103-106.



(注意)・答案は必ず提出すること。・太線内は必ず記入すること。

学習院大学大学院

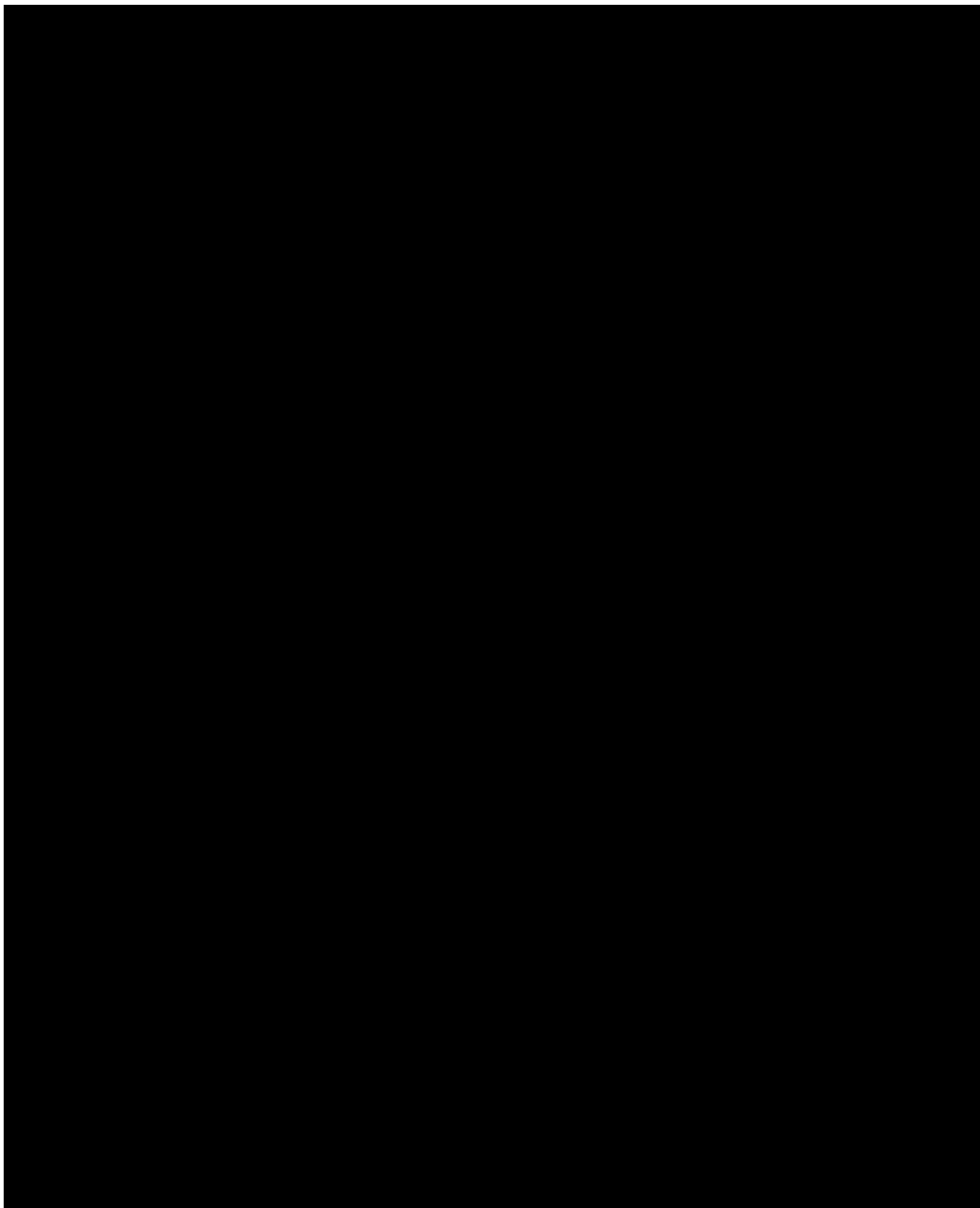
課 程	博士前期課程	研 究 科	政治学研究科	専 攻	政治学専攻	受 験 番 号		フリ ガナ	
								氏 名	
試 験 科 目	令和8年度 一般入試(B日程) 総 合 問 題 (英 語)			備 考	問 題 用 紙			採 点 欄	



(注意)・答案は必ず提出すること。・太線内は必ず記入すること。

学習院大学大学院

課 程	博士前期課程	研 究 科	政治学研究科	専 攻	政治学専攻	受 験 番 号		フリ ガナ	
								氏 名	
試 験 科 目	令和8年度 一般入試(B日程) 総 合 問 題 (英 語)			備 考	問 題 用 紙			採 点 欄	



設問 下線部(1)から(5)の英文をすべて訳しなさい。解答する際には、(1)から(5)の番号を明記してから解答すること。

課程	博士前期課程	研究科	政治学研究科	専攻	政治学専攻	受験番号		氏名	
試験科目	令和8年度 一般入試(B日程)	総合問題	備考	問題用紙	採点欄				

新聞記事（一連の特集記事の一部を、その1、その2に分けてレイアウトしたもの）を読んで次の問いに答えなさい。

(1) 記事その1の見出しにある「太平洋キンメ貯金」とは何か、3行程度で説明しなさい。
(配点 10 点)

(2) 記事その2に示された日本政府（水産庁）の対策と国連が打ち出した方策の概要を述べ、それぞれの長所と短所を説明しなさい。記事の情報に不足がある場合は、あなたがもつ知識で補ってもよいし、推論を述べてもよい。(配点 20 点)

(3) 記事その2の最終段落に示された提案について、あなたはどうか考えるか。記事の情報やあなたがもつ知識を用いて、できるだけ具体的に論じなさい。(配点 20 点)

記事その1

漁師の誇り 太平洋キンメ貯金

2030
SDGsで変える

Sustainable Development Goals
(持続可能な開発目標)
すべての国連加盟国が2030年までの達成を目指す、貧困や教育、環境など17分野にわたる目標

午前9時すぎ。千葉・外房沖で早朝のキンメダイ漁を終えた13隻の小型漁船が勝浦港に戻ってきた。色鮮やかな魚は市場に運び込まれ、大ききごとに分けられていく。その様子を、朝日新聞SDGsプロジェクトでエグゼクティブ・ディレクターを務める国谷裕子さんが取材していた。

700g以上の魚は「外房つりきんめ鯛」のブランド名で出荷されると説明を受けた国谷さんの前で、入札が始まった。1斗あたり最高4633円。石井明人さんの全功丸の水揚げは大漁の105斗で、約20万円を売り上げた。

ただ、大漁はまれで、ほとんど取れない日もあれば悪天候で出漁できない日もある。「毎日違うから、それを乗りむようにしている。それで、明日もがんばるよ!」とわ

けさ、外房のキンメ漁をめぐる様々な自主ルールは、千葉県の勝浦市・鴨川市・御宿町の16船団でつくる「千葉県沿岸小型漁船漁業協同組合」(1966年結成)で定めている。漁師たちは地元漁協に所属しつつ、漁協を越えた課題を扱う、この広域組合にも入っている。キンメ部会には、207隻・340人が所属する。勝浦沖のキンメ漁場は1930年に見つかり、当初は千葉や神奈川の船が自由に操業していた。ところが戦後、一部の船が集魚灯を使って夜間操業を始め、問題になった。協議の結果、55年から夜間操業は禁止、漁法も一本釣りの一種の立て縄式に限ることにした。これが、今に続く自主ルールづくりの始まりだ。

その後も、船が増えるなどして魚が減る危機感が高まるごとに、操業時間を8時間→6時間→5時間へと短縮。9年前からは4時間に。あわせて針の数やエサの種類を制限するルールも加えていった。

93年には、漁協の操業規約に「安定した漁場として持続させる」という言葉も入れた。

資源管理の徹底を図るため、1回の網入れで組合員1年分のキンメを取ることができ、大中型のまき網船とも交渉してきた。時には、海上で船を取り囲んで話し合いを求めたこともある。水産庁と千葉県の立ち会いのもと、漁場には入らない協定を結び、2年ごとに更新している。

日本のキンメダイの漁獲量は4617ト(2020年)。8割を千葉県と静岡県、東京都、神奈川県で占める。水産庁によると、全国のキンメの資源水準は、十分でないことを示す「低位」。動向は横ばいだ。一方で千葉県は、勝浦沖の資源水準は「高位」で、増加傾向としている。休漁日の取り組みは1都3県に共通するが、産卵期に3カ月も休むのは外房だけ。「取りすぎない努力」を続けながら水揚げ日本一となったことは、漁師たちの励みになっている。

「昔は春はカツオ、夏と秋はスルメイカ、冬はサバも取れたが、いなくなってしまう」。沿岸組合の組合長は言う。「残されたキンメで生活しているからこそ、大切に。次の時代に残していくのが私たちの責任。『太平洋銀行』に、キンメを貯金しているんです」

課程	博士前期課程	研究科	政治学研究科	専攻	政治学専攻	受験番号	フリガナ 氏名
試験科目	令和8年度 一般入試(B日程) 総合問題			備考	問題用紙	採点欄	

記事その2

取りすぎる世界 枠をはめる政府

「努力した外房が損する」画一的ルール

いま世界は、人口増や乱獲、違法操業の横行で魚を取りすぎてしまっている。国連食糧農業機関（FAO）は、水産資源の3分の1が「過剰利用」だと警告。日本でも、3段階で資源量が評価される42魚種61系群では「低位」が56%だ。

水産資源を回復させるため、政府は2020年施行の改正漁業法で、欧米で主流になっている数量管理を打ち出した。漁業者の自主的な努力だけでは足りないとして、漁獲量に国が「枠」を設けるものだ。

具体的には、研究機関が算出する資源量などをもとに漁獲可能量（TAC）を決め、都道府県などに配分する。すでにサンマやマサバなど8魚種に適用され、全漁獲量の6割に及ぶ。水産庁は23年度までに、8割になるまで対象魚種を増やす方針で、0・1%分のキンメダイも候補だ。

ただ、過去の漁獲実績をベースに配分が決まるため、「取らない努力」をしてきた外房の漁師たちの割当量は、「取れるだけ取ってきた」漁師たちより、皮肉なことになくなりかねない。細かい配分は現場に委ねられるため、漁師たちの結束にもヒビが入りかねない。長年の努力や成果を考慮することなく、画一的な仕組みが適用されることに、漁師たちは異議を唱えている。

政府は今年3月、水産資源の管理▽水産業の成長産業化▽漁村の活性化を3本柱とする水産基本計画を閣議決定した。全体的に大規模化・効率化に主眼が置かれており、外房の漁師たちのような小規模漁業者のための政策は、心もとない。

対照的に、こうした小規模漁業者が光を当てようとしているのがSDGsだ。海洋資源の保全（目標14）▽飢餓の撲滅（目標2）▽仕事づくり（目標8）などの担い手として、国連は重視する姿勢を示している。

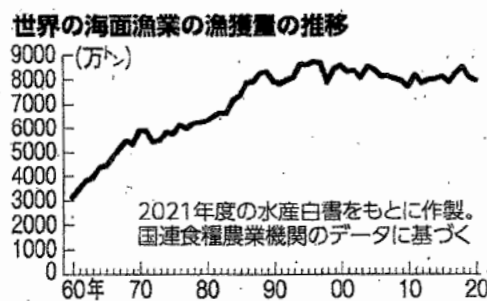
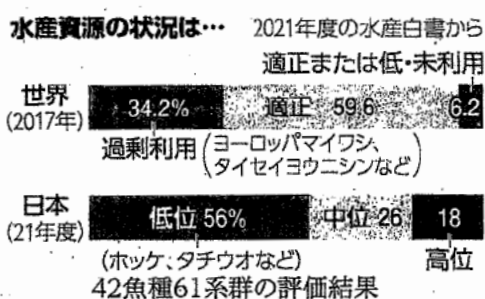
FAOによると、小規模漁業者は世界の漁業者の9割、漁獲量の4割を占める。日本でも、外房のキンメダイのような小型船の漁師や海面で養殖をする人が該当し、漁業者の9割を超える。国連が重視を打ち出したのは、地域で多面的な機能を果たす存在だからだ。

一つの産業として雇用や地元経済を支える。海岸線を守って海難救助にも協力しながら伝統文化も継承する――。そんな小規模漁業者を、国連は「規模は小さいが価値は大きい」と評価。各国に、支援の強化や現場の声を政策決定に反映させることを求めながら、所得を増加させることも目指している。

こうした小規模漁業者たちの声と取り組みを、大きな力に変えていこうと、新たな連携も広がっている。

7月には岩手県陸前高田市で、国際小規模漁業年を記念した催しがあり、持続可能な漁業などについて意見交換した。主催した全国沿岸漁民連絡協議会は、小規模漁業者ら1万2千人が参加する。事務局長の二平章さんは「地域の漁業者は、持続的な社会を作る力。『今だけ』『金だけ』『自分だけ』の流れと反対にあるのが外房のキンメダイです」と講演。各地の漁師が、外房のように協働する能力を磨いて自治の力を深めることが、漁業資源と産業の安定につながることを強調した。

全国の浜を歩いている農林中金総合研究所の主任研究員は、「外房では、数世代にわたって漁業者自身が乱獲を防いできた。これは持続可能な社会の基盤である共有資源（コモンズ）を守る方法で、09年にノーベル経済学賞を受賞した『共同体による共有資源の自主的な管



理』の考え方を体现している」とみる。

その上で「政府は漁業者による自主管理を正當に評価し、人づくりに投資すべきだ。都会の消費者も、海水温の上昇など海の異変に直面しながら食料を生産する人たちにもっと目を向けてほしい」と、小規模漁業者の支援を通じて豊かな海を守っていく必要性を指摘する。

(編集委員・北郷美由紀)

(注意)・答案は必ず提出すること。・太線内は必ず記入すること。

課 程	博士前期課程	研 究 科	政治学研究科	専 攻	政治学専攻	受験 番号		フリ ガナ	
								氏 名	
試 験 科 目	2026年度 一般入試(B日程) 総 合 問 題 (英 語)			備 考	解 答 用 紙			採 点 欄	

5

10

15

20

25

30

(注意)・答案は必ず提出すること。・太線内は必ず記入すること。

学習院大学大学院

課 程	博士前期課程	研 究 科	政治学研究科	専 攻	政治学専攻	受験番号			
	2026年度 一般入試(B日程)			備 考	解 答 用 紙		採 点 欄		
試 験 科 目	総 合 問 題								

5

10

5

20

25

30

35

	5
	10
	15
	20
	25
	30
	35
	40